

2023年6月6日

第9回 協会けんぽ調査分析フォーラム

遠隔面談を活用した 初回面談の分割実施

手塚 昌子

全国健康保険協会 富山支部

【背景】

国が定める全国健康保険協会の特定保健指導（以下「特保」）実施率（2023年度目標値：35％）を達成するためには、特保対象者を確実に初回面談に結び付けることが不可欠である。

従業員に健診・特保を受けさせる事業所側にとっては、健診当日に初回面談を実施することが最も効率的と考えられるが、主に従業員数の多い事業所が利用する検診車での健診では、健診当日の初回面談実施が難しい状況であった。

【目的】

検診車を利用した健診会場に遠隔面談機器を配置、保健指導専門機関による初回面談の分割実施体制を整備し、特保実施率の向上を図ることを目的に、2020年度に富山支部が実施したパイロット事業の事例を報告する。

【方法】

検診車を保有する健診機関4機関・保健指導専門機関2機関と委託契約を締結。検診車による健診実施予定の事業所に対し、事前に承諾を得た12事業所で実施。

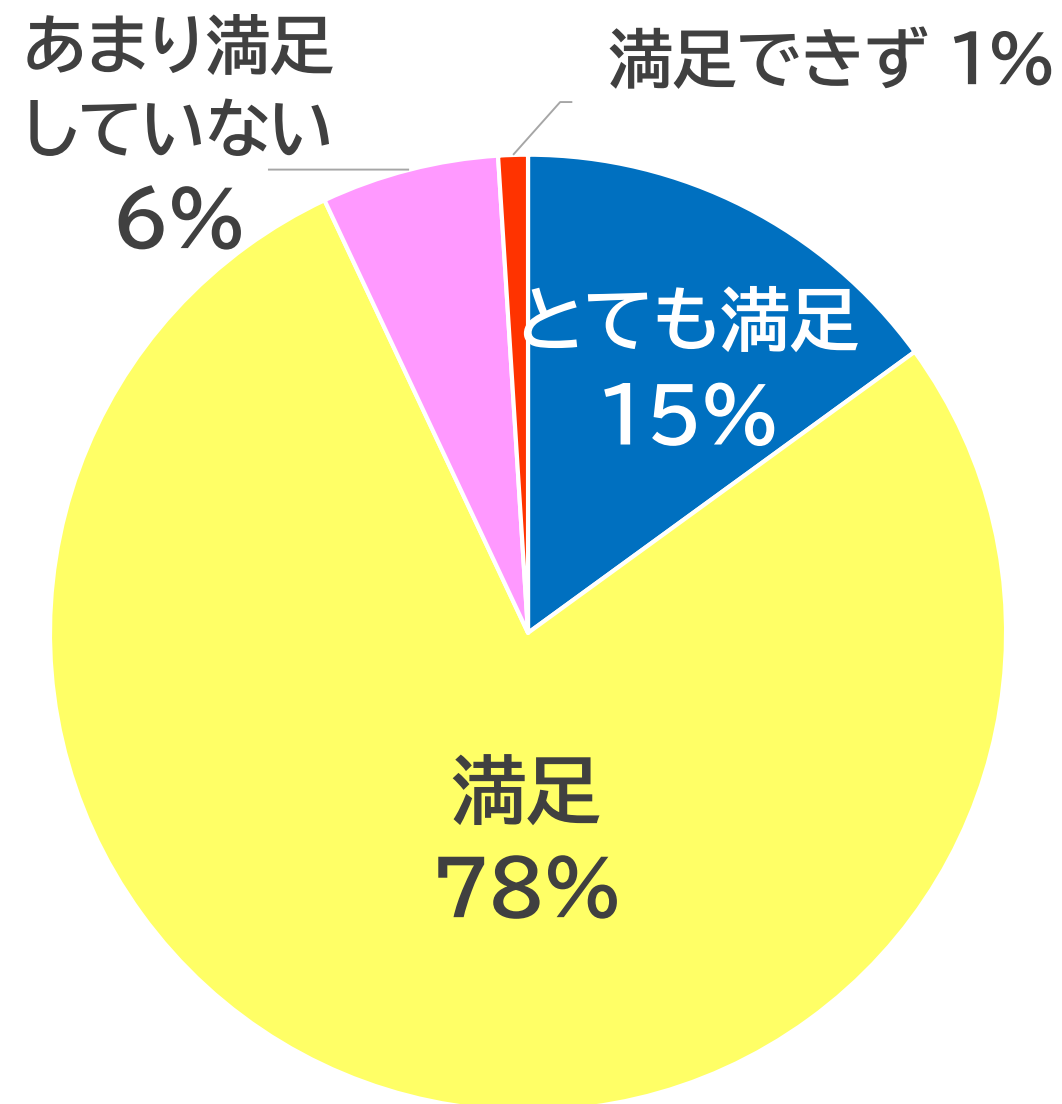
健診機関は通常の健診業務のほか、特保対象者の選定・対象者への説明・遠隔面談機器の操作等を担い、保健指導専門機関は、初回面談（分割実施）と継続支援を実施。

- ① 遠隔面談の満足度を利用者(105人)と事業所担当者(12事業所)にアンケート調査
- ② 12事業所の初回面談実施率を前年度と比較
- ③ 12事業所の特保対象者を2020年度の特保あり群(213人)と特保なし群(464人)に分け、過去2年の特保該当率・利用率を χ^2 検定で比較(有意水準5%)
- ④ 特保あり群を遠隔面談群(105人)と対面面談群(108人)に分け、③と同様に比較

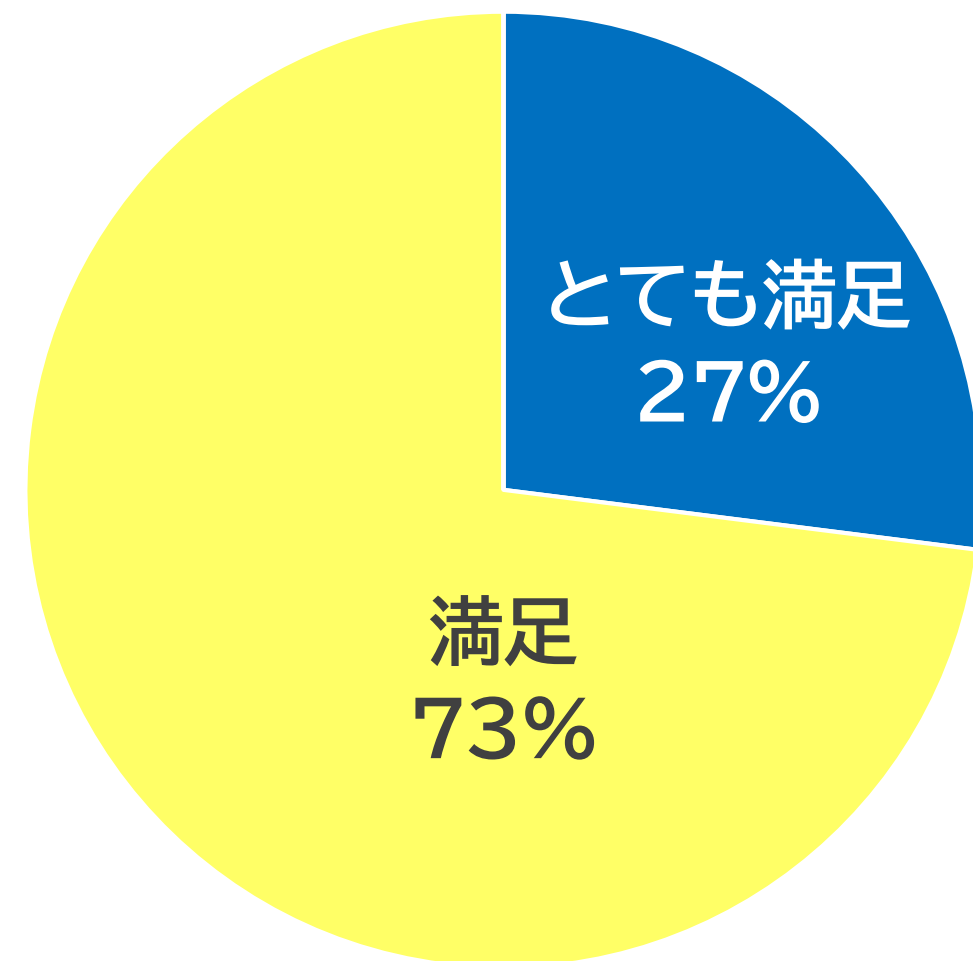
【結果】

① アンケートは利用者の93%、事業所担当者の全員(未回答1事業所を除く)が満足と回答

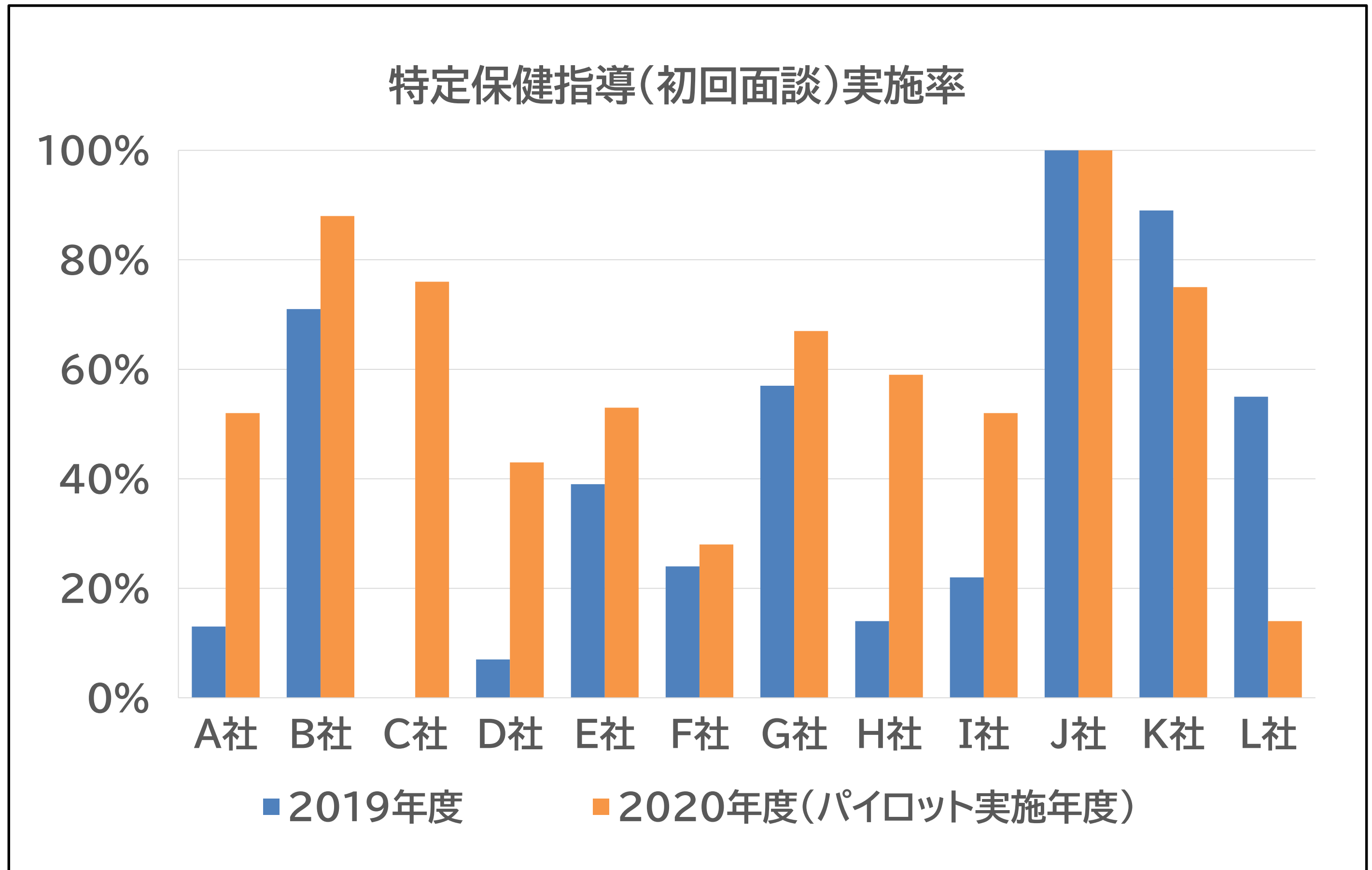
利用者アンケート



事業所担当者アンケート



② 初回面談実施率は10事業所で増加



③ 特保あり群と特保なし群で過去2年の特保該当率に有意な差はなかったが、特保利用率は2020年度の特保なし群の方が2年前も有意に低かった。

年度	対象者 (2020年度の)	受診率	特保該当率	特保利用率
2019年度	特保あり群	93.0%	67.2%	39.1%
	特保なし群	91.4%	69.6%	31.5%
	パイロット参加者(再掲)	94.3%	83.8%	16.9%
2018年度	特保あり群	89.2%	63.7%	43.0%
	特保なし群	86.0%	64.7%	11.6%
	パイロット参加者(再掲)	80.0%	71.4%	18.3%

n.s: $p \geq 0.05$, * : $p < 0.05$, ** : $p < 0.01$, *** : $p < 0.001$

- ④ 遠隔面談群の過去2年の特保利用率は、
対面面談群より有意に低かった。
遠隔面談群の70.5%は、直近5年間に
指導を受けたことがない者であった。

年度	対象者 (2020年度の)	受診率	特保該当率	特保利用率
2019年度	遠隔面談群	94.3%	83.8%	16.9%
	対面面談群	91.7%	50.5%	76.0%
2018年度	遠隔面談群	80.0%	71.4%	18.3%
	対面面談群	98.1%	57.5%	67.2%

n.s: $p \geq 0.05$, * : $p < 0.05$, ** : $p < 0.01$, *** : $p < 0.001$

【③ の対象者】

特保あり群:

2020年度 特定保健指導を**利用した者** 213人

特保なし群:

2020年度 特定保健指導を**利用しなかった者** 464人

パイロット参加者:

2020年度 パイロット事業に参加(遠隔面談で特保)した者 105人

【④ の対象者】

パイロット事業参加事業所における特保対象者のうち

遠隔面談群:

2020年度 特定保健指導を**遠隔面談**にて実施した者 105人

対面面談群:

2020年度 特定保健指導を**対面面談**にて実施した者 108人

【考察】

過去の特保未利用者が遠隔面談群の中で多数を占めたことから、本パイロット事業は過去の特保未利用者を呼び込んだ可能性がある。

なお、遠隔面談群の約70%が保健指導を初回面談後も継続しており、継続率は対面面談と同水準となっている。

遠隔面談の満足度は、利用者・事業所担当者ともに高く、特保実施率の向上にも有効であると考えられる結果となったことから、次年度以降は規模を拡大して実施していく。